

二〇二五年度

二月一日午後入試

国語 (45分)

注意

- 1 開始の「チャイム」が鳴るまでは、中を見てはいけません。
- 2 答えはすべて解答用紙の解答らんに、はっきり書きなさい。
- 3 終わりの「チャイム」が鳴ったら、とちゅうでもやめなさい。
- 4 問題のページは、2－1から2－13まであります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限のある場合は、句読点や記号も字数に数えます。）

私たちが守るべきもの

新型コロナウイルスによる感染流行が始まって以降、それをウイルスとの戦争にたとえる論調が相次いだ。フランス大統領エマニュエル・マクロンは、三月一二日のテレビ演説で、「私たちは戦争状態にある」と国民に向けたメッセージを発信し、三月一八日にアメリカ大統領であるドナルド・トランプは自らを戦時下の大統領に任じた。^① 私たちが直面している事態は戦争なのか。

結論からいえば、いま私たちが直面している状態は、決して戦争ではない。

理由は、幾つかある。第一に、これが戦争であれば、そこには倒すべき相手がいなくてはならないということ。しかしいまの私たちの前にあるのは、倒すべき相手ではなく、守るべき相手だということ。守るべき相手とは、感染した人であり、この脅威によって経済的にも社会的にも大きな影響を受けている人々である。^② 戦争という言葉は、私たちに、そうした基本的な事実を忘れさせてしまう。

大切なものを守るために、私たちは、社会的距離をとり、外出を控えた。各国でも、都市封鎖が行われた。今後も一定程度の社会的距離は必要となるだろう。

社会的距離をとることの目的は何か。社会的距離は、流行の広がりを防ぎ、何より流行の速度を遅くする。それは、ピーク時における感染者数を抑制し、医療崩壊を防ぐことに貢献する。

医療が崩壊すれば助けることのできる命さえ奪われる。医療崩壊を防ぐことによって、救える命が救われる。^③ これが医療崩壊を防ぐ第一の目的となる。

第二に、医療崩壊は、私たちに命の選別を迫る。崩壊したなかで残る数少ない受療機会は、だれが優先的に医療を受けることができるかという厳しい判断を、迫るものとなる。倫理の問題であると同時に、私たちのこころの問題となる。その選択は、どのような選択をしようと、選択をしたもののこころに、消えることのない負債を残す。

そして何より、それを仕方ないと受け入れる過程で、私たちは自らの行動を正当化し、それに慣れていく。慣れていく過程で、社会のなかにおいて、最も弱い人を守らなくてはならないという、極めて重要で基本的な倫理観が次第に麻痺していく。^④ それが何より恐ろしい。

外出を控え、自粛をするもう一つの意味

流行速度を遅くすることとは、医療崩壊を防ぐと同時に、病原体の進化といった側面からも大きな意味がある。流行速度を遅くすることで、ウイルスを「弱毒化」^⑤ に向かわせることができる。

そもそもウイルスは、自分だけでは生きることができない。生物か否かの議論は別にして、ウイルスは少なくともその複製に宿主を必要とする。そして、複製の過程で、さまざまな種類のウイルスを作り出す。なかには弱毒のものもあれば、強毒のものもある。どのウイルスが支配的になるかは確率論の世界の話になるが、穏やかな流行は弱毒化への淘汰圧として働く。^{※どうたあつ}

例えば増殖の過程で、弱毒と強毒の二つのウイルスが出現したとして、流行が緩やかだと、強毒ウイルスは、次の宿主に感染する前に宿主である人間を殺してしまい、自らを次世代へ残すことができない。一方、弱毒ウイルスは宿主を殺すことなく、宿主と長く共存し、次の宿主へと感染していく。結果として、流行が緩やかな状況下では弱毒ウイルスが優勢となる。^{じようきよう}

第一次世界大戦末期に流行し世界中で五〇〇〇万人とも一億人ともいわれる被害を出したスペイン風邪は、第一波よりその翌年に起きた第二波での致死率のほうが高かった。スペイン風邪が流行を始めた一九一八年は、第一次世界大戦末期で、アメリカがヨーロッパ戦線への参戦を決めた次の年だった。若い兵士たちは船で大西洋を渡り、西部戦線へと向かった。船は込み合い、前線では兵舎や塹壕で、多くの兵士が密集した。それがウイルスの拡大に格好の土壌を提供した。一方、世界的に見れば、第一次世界大戦は、人や物資を、植民地を巻き込んで動員した、まさに初めての世界規模の大戦であった。増大する物流や、動員を含めた人の移動が流行を、それまでにない速さで広げた。その速い拡大速度が病原性を高め、高い致死率をもたらした可能性は高い。

ウイルス自身が意思を持って、弱毒化するとか強毒化するということはない。しかし、流行の速度は、ウイルスの選択に対して、淘汰圧という進化の駆動力を通して大きな影響を与える。

新型コロナウイルスに関して、感染力や毒性がどれほどのものかは、現時点では未だ評価が定まっていない。だとしても、流行の速度を遅くすることで、私たちは、弱毒ウイルスの選択確率を高めることはできる。⑦そしてそれは、ウイルスとの穏やかな共存状態への移行を可能にする一筋の道ともなる。そこに、外出を控え自粛するもう一つの意味がある。

自覚的であるべきこと

こうした自粛要請や都市封鎖は、移動や旅行の自由といった私権の制限を伴う。それについて、ドイツのメルケル首相は三月一八日、国民に向けてテレビで演説をした。少し長くなるが引用したい。

演説は「親愛なるドイツにお住まいの皆様」という言葉で始まり、「コロナウイルスは現在わが国の生活を劇的に変化させています」と続く。そして次のように言う。

「開かれた民主主義に必要なことは、私たちが政治決断を透明にし、説明すること、私たちの行動の根拠をできる限り示して、それを伝達することで、理解を得られるようにすることです。(中略)

⑧連邦政府と各州が合意した閉鎖措置が、私たちの生活に、そして民主主義的な自己認識にどれだけ厳しく介入するか、私は承知しています。(中略)

私は保証します。旅行および移動の自由が苦勞して勝ち取った権利であることを実感している私のようなものにとつては、このような制限は絶対的に必要な場合のみ正当化されるものです。そうしたことは民主主義社会において決して軽々しく、一時的であっても決められるべきではありません。しかし、それは今、命を救うために不可欠なのです」

(林フィーゼル美佳子氏訳)

移動や旅行が個人の自由でなかった旧東ドイツ出身で、そうした権利は天与のものではなく、自ら獲得すべきものだということを誰よりも知っている、そんな彼女がそれでも「自由を制限する必要がある」と、国民に理解を求めた言葉であった。

私権の制限は、それほど、社会や個人に大きな痛みを与える例外的な措置である。私権のあり方とその制限に関しては、それを要請する側も、それを受け取る側も、自覚的であってほしい。⑨少なくとも私自身は自覚的でありたいと思う。

それは、ポストコロナ社会において、感染予防のためには、強い監視的国家がよいのか、市民のエンパワー

メントによる民主主義的手法に則った社会がよいのかといった議論にも通じるものとなる。ともすれば、緊急時の強権的私権の制限は、その後の日常にもその影を残し続ける。そのことにも自覚的でなくてはならない。

※パンデミックは社会変革の先駆けとなる

歴史を振り返れば、私たちは、幾度ものパンデミックを経験してきた。一四世紀ヨーロッパで流行した黒死病（ペスト）やコロンブスの再発見後の一六世紀新大陸で見られた旧大陸感染症の大流行。一九一八年から一九九年にかけて世界を席卷したスペイン風邪などである。

黒死病によって、当時のヨーロッパ世界は、人口の四分の一とも三分の一とも推定される人を失った。コロンブス再発見以降の一六世紀南北アメリカ大陸は、麻疹や天然痘、結核といった感染症によって人口の実に八割以上を失った。それがスペインの植民地進出を許す要因ともなった。

一九一八年のスペイン風邪は、五〇〇〇万人とも一億人とも推計される死亡者を出した。一九一八年当時の世界人口は一八億人ほどだった。パンデミックがもたらす被害の大きさがわかる。

そうしたパンデミックは時として、社会変革の先駆けとなってきた。

⑩中世のペストがヨーロッパ社会に与えた影響は、少なくとも三つあった。

第一に、労働力の急激な減少が賃金の上昇をもたらした。農民は流動的になり、農奴やそれに依存した荘園制の崩壊が加速した。

第二に、ペストの脅威を防ぐことのできなかった教会はその権威を失い、一方で国家というものが人々の意識のなかに台頭してきた。

第三に、人材の払底が既存の制度のなかであれば登用されることのない人材の登用をもたらし、社会や思想の枠組みを変える一つの原動力になった。結果として、封建的身分制度は実質的に解体へと向かう。同時にそれは、新しい価値観の創造へとつながっていった。

半世紀にわたるペスト流行の後、ヨーロッパは、ある意味で静謐で平和な時代を迎えた。それが内面的な思索を深めさせたという歴史家もいる。そうした条件が整うなかでやがて、ヨーロッパはイタリアを中心にルネサンスを迎え、文化的復興を遂げる。

ペスト以前と以降を比較すれば、ヨーロッパ社会は、まったく異なった社会へと変貌し、変貌した社会は、強力な主権国家を形成する。中世は終焉を迎え、近代を迎えたヨーロッパは、やがて新大陸やアフリカへと踏み出していくことになる。これがペスト後のヨーロッパ世界であった。

※疾病構造も変化した。

ペスト流行以前のヨーロッパにおいて、ハンセン病は一貫して重要な病気であり、療養所（レプロサリウム）が各地に建設された。一三世紀頃、ヨーロッパには二万近い数のレプロサリウムが存在した。にもかかわらず、一四世紀に入ると、ヨーロッパで新たなレプロサリウムが建設されることはなくなった。

コロンブス以降の一六世紀南北アメリカでも感染症は社会を大きく変えた。天然痘や麻疹といった、新大陸にはなく、旧大陸にのみ存在した感染症の広範かつ急激な流行の後に出現した社会は、それまでの現地の人々が暮らしてきた社会とは異なる、スペインを中心とする別世界となった。歴史学者のウィリアム・H・マクニールは以下のように述べている。

「聖なる理法も自然の秩序も、はっきりと原住民の伝統と信仰を非としている以上、抵抗ということにどん

な根拠が残っていたと言うのか。スペインの征服事業が異常なほどの容易さだったこと、また、わずか数百人の男が広大な地域と数百万の人間をがっちり支配し得た事実は、このように考えて初めて理解できる」

『疾病と世界史』ウィリアム・H・マクニール著、佐々木昭夫訳、中公文庫（下）

パンデミック後に時として出現する新たな社会は、独立した事象として現れるわけではなく、歴史の流れのなかで起こる変化を加速するかたちで表出する。一四世紀のペスト流行の時も、一六世紀南北アメリカでの感染症流行の時もそうだった。

さらにいえば、一九一八年のスペイン風邪流行時もそうだったと思う。流行後に起こったことは、新興国アメリカの世界史の舞台における台頭だった。アメリカは、その後、世界の政治や経済の中心となっていく。新型コロナウイルス感染症の流行が今後どのような軌跡をたどるのか、現時点で正確に予測することはできない。ただ流行が拡大し、遷延すれば、あるいは新型コロナウイルス感染症とは異なるが致死率の高い感染症が今後流行すれば、私たちは、私たちが知る世界とは異なる世界の出現を目撃することになるだろう。それがどのような社会かは、もちろんわからない。しかしそれは、一四世紀ヨーロッパのペスト流行時のように、旧秩序に変革を迫るものになるかもしれない。そうした変化は、流行が収束した後も続く。後から振り返れば、世界の秩序の転換点だったということになったとしても不思議はない。

繰り返しになるが、感染症は社会のあり方がその様相を規定し、流行した感染症は時に社会変革の先駆けとなる。そうした意味で、感染症のパンデミックは極めて X 的なものとなる。その時代、時代を反映したものとして、という意味ではあるが。

歴史が示す一つの教訓かもしれない。

「社会」が感染症を選び取る

これまで私たち研究者は、なぜ、ある感染症が流行するのか、その原因を一生懸命に考えてきた。しかし、^⑪ どうやらその「考え方」は「逆」ではないかと、最近思い始めている。流行する病原体を選び、感染症のパンデミックを性格付けるのは、「社会のあり方」ではないかと。

古くは、中世ヨーロッパの十字軍や民族移動によってもたらされたハンセン病。産業革命が引き起こした衛生環境の悪化が広げた結核。世界大戦という状況下で流行したインフルエンザ、植民地主義と近代医学の導入がもたらしたエイズ……。その意味では、今回の新型コロナウイルス感染症や未だアフリカを中心に流行収束が見られないエボラも例外でない。

ヒトの行き来により格段に狭くなった世界。とどまるところを知らない熱帯雨林の開発や地球温暖化。それらと相まって、野生動物の生息域が縮小し、ヒトと動物の距離が縮まった。野生動物と共存していたウイルスは調和を乱され、行く場所を求めてヒト社会に入り込んでくる。新興感染症がひんばんに発生する理由はそこにある。

加えて、増加した人口、都市への密集、世界の隅々まで発達した交通網が感染拡大の原動力となる。現代社会は、新型コロナウイルスのようなウイルスの出現と拡散の双方にとって「格好」の条件を用意しているのである。それは社会のあり方が変わることによって、さらに変わっていく。

私たち人間社会は、これまでも変わってきた、そしてこれからも変わっていくだろう。その時にどのようなウイルスが流行するか、それは、社会のあり方が規定する。そしてその時々のウイルスは、常に、私たち人間社会の脆弱な点を突くかのように流行するだろう。

そうした考え方に立てば、ウイルス感染症^{かんせんしんしょう}にとって「強い」すなわち強固な社会というものの絶対的なかたちというものはないことになる。だとすれば、ウイルスのパンデミックが今後も起こることを前提にした社会を創^{つく}っていくことは、一つの重要な選択肢になる。そして、それはおそらく、多様で、変化に柔軟^{じゅうなん}な社会ということになるのではないか。そうした社会は、監視^{かんし}的で強権的な社会では達成できない。市民のエンパワーメントを通じた民主的手法を通じた社会が求められる所以^{ゆえん}でもある。

選択可能な未来へ向けて

問題は、それがどのような社会かということになる。国民国家からそれを超えた国際的な連帯への転換^{てんかん}点となるのか。あるいは監視^{おとし}的分断社会の訪^{おも}れの始まりになるのか。人や物、情報が地球規模で流動化するグローバル化によって今回のパンデミックが特徴^{とくちょう}づけられるとすれば、世界がこれほど驚愕^{きょうがく}している姿は示唆^{しそ}的でもあった。

コロナ後の社会が、情報技術（IT）を主体にした社会へと転換するのは間違いない。しかし情報技術はあくまで道具であって、目的ではない。それをどのように使うかは、私たち一人ひとりが考えるべき問題として残る。

その時に大切なことは、明日への「希望」だと思う。

二〇年以上も前に、アフリカでエイズ対策をしていた。現在のような治療^{ちりょう}薬はなく、予防が唯一^{ゆいいつ}私たちにできる対策だった。村から村へと回り、感染予防の重要性を説く。しかし、それがなかなか上手^{うま}くいかない。

ある日、一人の青年がつぶやく。「一〇年後は、エイズじゃなくても飢餓^{きが}とか暴力とか、戦争で亡^なくなっている。いま、エイズ予防をする意味はあるのか？」

対策がうまくいかなかったのは、彼^{かれ}／彼女^{かのじょ}らの理解が足りなかったわけでも、私たちの説明が悪かったわけでもなかった。ただ、彼／彼女らが、一〇年後の自分を想像できなかったからだだった。

社会がどうあるか、どう変わっていくか、どういう希望のもとにあるべきか、というのは、一人ひとりの心のなかにしかない。それが合わさって、未来への希望につながる。言葉を換^かえて言えば、選択可能な未来は私たちのなかにしかないということかもしれない。

多くの災厄^{さいやく}が詰^つまっていたパンドラの箱[※]には、最後に「エルピス」と書かれた一枚の紙が残されていた。古代ギリシャ語でエルピスは「期待」とも「希望」とも訳される。パンドラの箱を巡^{めぐ}る解釈は二つある。パンドラの箱は、多くの災厄を世界にばら撒^まいたが、最後には希望が残されたとする説と、希望あるいは期待が残されたために人間は絶望もすることもできず、希望とともに永遠に苦痛を抱^{いだ}いて生きていかななくてはならなくなったとする説である。

パンドラの箱の物語は多分に寓意^{※くうい}的であるが、暗示的でもある。しかしそれがどちらであろうと、希望を未来へとつなげていくのは私たち自身でしかない。

（山本太郎『疫病^{えきびょう}と人類 新しい感染症の時代をどう生きるか』より）

※（注）

淘汰^{たうた}圧^{あち}

環境に合わないものがなくなり、環境に合うものが残るようにすすめる
力のこと。

塹壕^{せんごう}

戦争において敵の砲撃^{ほうげき}から身を守るために陣地^{じんち}の周りにほる穴やみぞの

こと。

天与てんよ 天から与えられるもの。

ポストコロナ社会 」「ポスト」とは他の語について「以後」という意味を持つ。ここでは、新型コロナウイルスが流行した後の社会のこと。

エンパワーメント 力をつけさせること。

パンデミック 感染症などの世界的流行。

農奴のうど 領主から貸しあたえられた土地を耕作した農民。

荘園しやうえん ヨーロッパ中世における公的支配を受けない、領主の私的な土地。

払底はらいてい 物がすっかりなくなること。

封建的ほうけん 地位や身分の上下を重んじ、個人の権利や自由をおさえつけている様子。

静謐せいひつ 静かで、落ち着いていること。

疾病しつぺい 病気のこと。

遷延せんえん 物事がのびのびになって、はかどらないこと。

旧秩序アンシャンレژیム 一七八九年の革命以前におけるフランスの政治・社会体制。また、広く

近代社会成立以前の社会・制度をさす場合もある。

十字軍 一世紀末から一三世紀にかけて西ヨーロッパのキリスト教徒が起こし

た異教徒討伐の遠征。

産業革命 品物を手で作る仕組みが、動力で機械を動かし、品物を大量に生産する

仕組みへと変わったこと。一八世紀の終わりごろからイギリスを中心に始まった。

脆弱ぜいじやく 身体や組織などが、もろく弱いこと。

示唆的しそく 他の物事によって、それとなく教え示している様。

パンドラの箱 ギリシャ神話で、ゼウスがパンドラにわたした箱。あらゆる悪・不幸・わざわいを封じこめてあった。パンドラが好奇心からこの箱を開けたので、地上には不幸が広がり、「希望」だけが箱の底に残ったという。

寓意的ぐうい 他の物事にたくして、ある意味をあらわしている様。

問一 ― 線①「私たちが直面している事態」とありますが、どのような「事態」を指していますか。文中から過不足なくぬき出して答えなさい。

問二 ― 線②「戦争という言葉は、私たちに、そうした基本的な事実を忘れさせてしまう。」とありますが、「そうした基本的な事実」とはどのようなことですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 戦争のように敵を倒すことだけに力を注ぐのではなく、感染流行の脅威により影響を受けてしまった人々を守ることに目を向ける必要があるということ。

イ 感染症の影響を受けている人々を守ることさえできれば平和になるので、戦争のようにウイルスを敵と見なして倒そうとすることは間違いだということ。

ウ 存在するのは感染した人や感染流行の影響を受けている守るべき人々であって、戦争のように倒すべき相手が存在するわけではないということ。

エ 戦争状態であったとしても倒すべき相手は敵対している国ではなく、経済的にも社会的にも大きな影響をおよぼすウイルスであるということ。

問三 ― 線③「これが医療崩壊を防ぐ第一の目的となる。」とありますが、「医療崩壊を防ぐ」ためにどのようなことが行われましたか。文中から十字でぬき出して答えなさい。

問四 ― 線④「それが何より恐ろしい。」とありますが、どのようなことが「恐ろしい」のですか。解答らん「ことが恐ろしい。」につながるように文中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

問五 ― 線⑤「ウイルス」とありますが、「ウイルス」の特徴を説明したものとして適当なものを次のア～エの中から二つ選び、その記号を答えなさい。

ア ウイルスは複製の過程で弱毒なものと強毒なものを出現させるが、流行速度が緩やかな場合、強毒ウイルスが増殖することが多い。

イ ウイルスは自身を複製するために宿主を必要としており、複製の過程でさまざまな種類のウイルスを作り出す。

ウ ウイルスは自らを複製するために宿主を必要とするが、複製をくり返すことで宿主に依存しなくとも生きられるようになる。

エ ウイルスは自らを複製する過程でさまざまな種類のウイルスを作り出すが、どのウイルスが支配的になるかはウイルス自身が選択しているわけではない。

問六

——線⑥「第一次世界大戦末期に流行し世界中で五〇〇〇万人とも一億人ともいわれる被害を出したスペイン風邪は、第一波よりその翌年に起きた第二波での致死率のほうが高かった。」とありますが、「第二波での致死率」が「高かった」のはなぜだと考えられますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア ウイルスの毒性は感染流行の速度に影響を受ける。戦争では多くの兵士が密集するような環境が生まれ、物流や動員を含めた人の移動が世界規模で活発となる。そうした状況によりウイルスの拡大速度が速まって強毒ウイルスが優勢になり、致死率が高まったと考えられる。

イ ウイルスの毒性は宿主が置かれた環境に影響を受ける。戦争では戦線へ移動する船、兵舎や塹壕で多くの兵士が密集して過ごすことになる。そうした状況は弱毒なものから強毒なものへと進化させる土壌となり、致死率を高めたと考えられる。

ウ 感染流行の速度はウイルスの毒性に影響を受ける。戦争では兵士が密集したり世界規模で物流や人の移動が活発になったりと、強毒なウイルスが優勢となる土壌が与えられる。そうした状況がウイルスの拡大速度を上げ、致死率を高めたと考えられる。

エ 感染流行の速度はウイルスの種類に影響を受ける。戦争では若い兵士が密集した環境で過ごしたり、人や物の移動が世界規模で活発になったりする。そうした状況は多様なウイルスを出現させて拡大速度が速まり、致死率も高まったと考えられる。

問七

——線⑦「ウイルスとの穏やかな共存状態」とありますが、「穏やかな共存状態」とはどのような「状態」ですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 宿主である人間の中でウイルスが弱毒化され、緩やかにウイルスそのものが消滅する状態。

イ ウイルスが宿主となった人間の体内で複製をくり返し、種類が増え続けている状態。

ウ 宿主である人間がウイルスの特性を見極め、弱毒ウイルスの選択確率を高められる状態。

エ ウイルスが弱毒化して宿主となった人間の命を奪わず、両者が共に存在している状態。

問八

——線⑧「連邦政府と各州が合意した閉鎖措置」とありますが、ここでの「閉鎖措置」とはどのようなものですか。解答さんの「の制限。」につながるように文中から十字以内でぬき出して答えなさい。

問九 — 線⑨「少なくとも私自身は自覚的でありたいと思う。」とありますが、筆者はどのようなことについて「自覚的でありたい」と思っていますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 個人の行動を制限することは、民主主義社会や個人に大きな痛みを与える例外的な措置であると
いうこと。
- イ たとえ感染予防のためであったとしても、行動の制限は国ではなく個人の判断に任されるべきだ
ということ。
- ウ たとえ個人の自由を制限するものであったとしても、国からの要請があれば国民は常に従わなけ
ればならないということ。
- エ 個人の行動の制限は監視的国家を形成することにつながるので、いかなる理由があっても許され
るべきではないということ。

問十 — 線⑩「中世のペストがヨーロッパ社会に与えた影響は、少なくとも三つあった。」とありますが、
「中世のペストがヨーロッパ社会に与えた影響」を説明したものとしてあてはまらないものを次のア～
ウの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア ペストの感染流行により労働力が急激に減少し、賃金の上昇から農民は出かせぎに行くようにな
り、農奴に依存していた荘園制の崩壊が加速していった。
- イ ペストが大流行する中でペストの脅威から民衆を守ることができなかった教会は権威を失い、国
家という意識が人々のなかで強まっていった。
- ウ ペストの流行で有用な人材が不足し、既存の身分や思想にとられない人材を登用するようにな
り、新しい価値観が創造されるなかでペストの脅威を防ぐ強力な国家が形成された。

問十一 文中の Xにあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その
記号を答えなさい。

- ア 社会 イ 個人 ウ 一時 エ 画一

問十二——線⑪「しかし、どうやらその『考え方』は『逆』ではないかと、最近思い始めている。」について、次の1・2の問いに答えなさい。

1 「その『考え方』とはどのような「考え方」ですか。解答さんの「という考え方。」につながるように、「原因」という言葉を使って二十字以内で答えなさい。

2 「その『考え方』が「逆」とはどういうことですか。次のア・エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 流行する病原体や感染症の広まり方により、社会のあり方が決められていくということ。
イ 社会のあり方が流行する病原体を選び、感染症の広まり方も特徴づけているということ。
ウ 感染症への対策は社会のあり方によって決まるので、病原体の特徴に影響を受けないということ。
エ 感染症はその時代の特徴を反映しながら拡大するので、流行の原因は特定できないということ。

問十三——線⑫「現代社会は、新型コロナウイルスのようなウイルスの出現と拡散の双方にとって『格好』の条件を用意しているのである。」について、次の1・2の問いに答えなさい。

1 「ウイルス」が「ヒト社会」へひんぱんに「出現」するようになったのはなぜですか。それを説明した次の文の [A]・[B] にあてはまる言葉を [A] は十一字、[B] は七字でそれぞれ文中からぬき出して答えなさい。

[A] したことで [B] していたウイルスは調和を乱され、行く場所をヒト社会に求めたから。

2 現代社会がもたらした「ウイルス」の「拡散」にとって『格好』の条件』となっているものは何ですか。文中から過不足なくぬき出して初めと終わりの三字を答えなさい。

問十四 ――線⑬「ウイルスのパンデミックが今後も起こることを前提にした社会」とありますが、「パンデミックが今後も起こることを前提にした社会」とはどのような「社会」ですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア ウイルスの流行に左右される弱さを市民が克服し、パンデミックを乗り越えるたびにウイルスへの対策が強化され、感染流行の影響を受けない社会。

イ 流行するウイルスの種類を予測し、パンデミックを回避する規定を人々の同意を得ながら作り出し、感染流行しても個人の自由が失われることのない社会。

ウ 市民による民主的な手法によって形づくられ、たとえ脆弱な点をつくかのようにウイルスが流行しても、多様で柔軟に変化してパンデミックを乗り越えられるような社会。

エ どんなウイルスが流行しても個人が自らの意志で行動を自粛し、パンデミックを押さえこめるように自主的に互いの行動を監視し合う社会。

問十五 ――線⑭「ある日、一人の青年がつぶやく。『一〇年後は、エイズじゃなくても飢餓とか暴力とか、戦争で亡くなっている。いま、エイズ予防をする意味はあるのか?』とありますが、この「一人の青年」の言葉から、筆者はどのようなことを言おうとしていますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 希望を未来へとつなげるためには感染症への知識だけでなく、社会に生きる一人ひとりが自分の未来を心の中に想像できることが大切であるということ。

イ 希望を未来につなげるためには感染症への知識が必要であり、一人ひとりが感染症を予防することにより良い社会をつくりあげていく必要があるということ。

ウ 自分の未来を想像できる社会を実現するため、感染予防の重要性を理解してもらえるようにくり返し丁寧に説明することが大切であるということ。

エ 感染症以外にも困難を抱えている人々は、どの問題から解決をしていけばよいのか考えるゆとりがないので、優先順位を示してあげる必要があるということ。

問十六 本文の内容を説明したものととして最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 南北アメリカ大陸は、天然痘や麻疹といった旧大陸に存在しなかった感染症によって人口の八割以上が失われたことでスペインの植民地となった。

イ ペスト流行以前に重要な病気とされていたハンセン病はペストの流行によってウイルスが弱毒化され、患者数が減って新たな療養所が建設されなくなった。

ウ パンデミックは時として社会変革の先駆けとなり、歴史の中で起こる変化を加速させて新しい社会を表出させることに影響を与えてきた。

エ 新型コロナウイルス流行後は情報が地球規模で流動化するグローバル化が進むと考えられるので、情報技術を主体とした社会を目指すべきである。

二 次の漢字と言葉に関する問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の――線部のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

- ① 五点もリードされ、ハタイロが悪い。
- ② 会社が大きなジュンエキをあげる。
- ③ カンレイ前線によつて大雨となつた。
- ④ 教室にあるごみをジヨキヨする。
- ⑤ 大きく息をスい込む。

問二 次の①～④の――線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- ① 定石通りに物事を進める。
- ② 事業の間口を広げる。
- ③ 友人の声に呼応して声を出す。
- ④ 業界を束ねる人物。

問三 次の①～③の二つの慣用句の組み合わせについて後の1・2の問いに答えなさい。

- | | | | | | |
|---|----------------------|--------|---|----------------------|--------|
| ① | <input type="text"/> | をなでおろす | / | <input type="text"/> | がおどる |
| ② | <input type="text"/> | が堅い | / | <input type="text"/> | がすべる |
| ③ | <input type="text"/> | をつぶす | / | <input type="text"/> | から火が出る |

1 ①～③の組み合わせられた慣用句の には同じ漢字一字が入ります。それぞれその漢字一字を答えなさい。

2 ①～③の慣用句の組み合わせの中で良い意味で使われる慣用句と、悪い意味で使われる慣用句の組み合わせとなっているものを一つ選び、記号で答えなさい。

問四 次の①～④の文の——線部の語と同じ働きをするものを、後のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

① わたしのおじいちゃんは岩手県に住んでいる。

ア 兄は学校の先生になりたがっている。

イ いたずらをして母にしかられた。

ウ 先日のお礼に手紙を送ることにした。

エ 本棚にたくさんの本がある。

② 目が覚めると外はまだまっくらだった。

ア どのような問題が出題されようと解いてみせるつもりだ。

イ 明日は父と博物館に行く予定だ。

ウ 雨が降り出すと校庭の生徒たちはいっせいに校舎へかけこんだ。

エ ちりも積もれば山となる。

③ 壁にかけた絵を見てください。

ア 試験が終わった人は、こちらからお帰りください。

イ 先週の日曜日は家族で焼き肉を食べた。

ウ すわったままで話を聞いてください。

エ そうだ、今日は友だちと遊びに行く予定だった。

④ 何度読んでもよくわからない。

ア このくらいのことは一年生でもできる。

イ 何度呼んでも返事がない。

ウ そろそろ一休みしてお茶でも飲もう。

エ 東京ではどこにでもコンビニエンスストアがある。

